

み
か
い

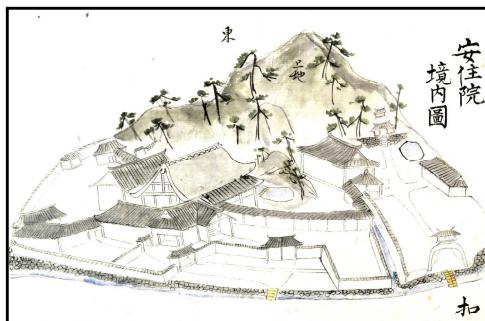
安住院便り (第33号)

平成26年8月1日発行
〒703-8236
岡山市中区国富3丁目1-29
住職 生駒琢一
TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

歴史

瓶井山禪光寺安住院の創建は、今から約二百年前、報恩大師という高僧が開かれたことや、その後の歴史も、パンフレット等で何度も紹介していますので、ご存知の方も多いと思います。

しかし実際には、当院の伝承によるもので、正式な資料が有る訳では無く、当時の時代背景、地理的状況などより、多くは推測されている部分が多いのも事実です。但し、操山周辺は、古墳時代からの遺跡も多く、戦国時代には合戦の要所でもあり、江戸時代には（ミカイ門前村）として記載されているなど、発展していた地域であることは証明されています。現在NHKテレビで放映中の大河ドラマ「軍師官兵衛」でも前半の中心的場面として、岡山市周辺の関係していった地域が多く登場しています。その時は、当安住院の回りはどうだったのか想像するのは、とても楽しいことではないでしょうか。官兵衛自身、岡山の長船町福岡の出身で、現の福岡県の名前の由来でもあります。



当院も、戦国時代には龍ノ口城主税所氏の援助を受け、その後、宇喜多氏、小早川秀秋公、そして江戸時代藩主池田諸公、それぞれに所領を安堵されていたことより、この地区の重要な拠点であつたと考えています。それにも増して、地区の皆さんに守られて栄えてきたことも事実です。

昔の寺院は、信仰の対象だけでなく、行政・教育の中心的存在であり、戦国時代は更に合戦時の出城の役割、宿場の代わりにもなっていました。村の集会所でもあつたはずです。古墳時代より続くこの地方の歴史の様々な資料を調べ検討し、それぞれの時代の様子をまとめる努力をしています。全く斬新なものを立ち上げることにも、当然意味があることかも知れませんが、昔から歴史の流れを大事にすることも必要です。その時代その時代の人々の努力の積み重ねが、文章では残らない深い歴史を伝えているのです。

西洋の政治家の有名な言葉に、「賢者は歴史に学ぶ」というのがあります。歴史を懐かしむだけでなく、歴史に学び、更に一步一歩、安住院の歴史を築いて行くことができればと願っています。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

合掌

(生駒 善勝) (その③)

前回は僧侶になつた経緯をお話しました。今回は高野山で過ごした日々についてお話しします。

大学を卒業してから八年の中で二年間、僧侶になる為の修業をする「真別処」という所にいました。高野山の寺院から更に山中へ行つた、とても山奥で、道路は未舗装で、朝夕にその道を通行すれば、鹿や猪とよく出会いました。

しかし、世間に煩わされない静かな所で、修行するには最高の場所です。一年の三分の二は、僧侶を希望する修行者がいて、その修行者の世話と教育係を勤めていました。料理の支度やゴミ捨て、また修行中は俗世間と離れる為、生活必需品も修行者自身では買うことが出来ないので、代わりに行きます。そして彼等は、百日余りの修行を終えて出ていきます。

修行に専念出来る様に私たちが努力しても、無事に何も無く最後を迎えるというはなかなか難しく、古傷の膝や腰の痛みが出てくることがあります。朝四時に起床して夜二十時消灯までの十七時間のかで、最低八時間は畳に正座をします。手を合わせているときは良い顔をしていますが、掃除の時や寮舎の階段では痛々しい者が居ました。その時は我慢をさせずに、病院に連れて行つたり、負担が掛からない様にいろいろと工夫していました。

甘やかす訳ではなく、打開策を見い出すことが大事なのです。寺務所の壁に「僧侶を育てるということは、仏様を生み出すということである」と書かれた紙により、意識を向上維持していました。

仏様を生み出していると信じて、手を抜かないことの大変さと大切さを教えて頂きました。

本当にこの二年間は色々と大変でしたが、充実したときでした。

丹波古刹靈場参拝②

今年四月二十三日、丹波古刹靈場の第二回目の参拝を行いました。今回は兵庫県丹波市を中心とした中央部五ヶ寺を巡りました。

前回同様に、歴史有る古刹の寺院で、広い境内や、由緒ある文化財を多数所有していることに、心から感動し、さわやかな春の日差し、お天気にも恵まれ、「素晴らしい」の言葉があちらこちらから聞こえてきました。

また、新緑には少し早かつたですが、山の木々に加え、石楠花などの季節の花々が境内に咲き、手入れの大変さを感じながらも、是非多くの参拝者に味わつてもらいたい、霧雨氣のある寺院であること

を認識して、無事帰路に着きました。

次の予定は、十月二十九日（水）の第三回目ですので、是非ご参加下さい。

